

ECONOMY TOPICS

経済トピックス

2012.11.14

No.417



業況 BSI、6 期ぶりに低下 (平成 24 年 7～9 月期の県内企業業況調査結果)

調査内容 平成 24 年 7～9 月期の県内企業の業況実績
平成 24 年 10～12 月期の県内企業の業況見通し

調査時期 平成 24 年 10 月上旬

調査対象企業 県内中堅企業 232 社

回答企業 143 社(回収率:61.6%)

製造業 34 社 建設業 28 社 卸売業 28 社
小売業 21 社 運輸業 10 社 サービス業 22 社

青森地区 47 社 津軽地区 39 社 県南地区 57 社

BSIとは

Business Survey Index の略であり、企業業況判断指標という意味である
指標の求め方は次の通り

BSI = 「業況良好企業及びやや良好企業の割合」 - 「業況不振及びやや不振企業の割合」

注:業況判断は前年同期との比較による

1. 概 況

平成 24 年 7～9 月期の全産業「業況 BSI」は前期(24 年 4～6 月期)比 13.6 ポイント低下の 3.5 となった。建設業で業況改善がみられたものの、卸売業、小売業で大幅に低下し、6 期ぶりに低下した。

一方、全産業「採算 BSI」は同 11.3 ポイント低下の 12.7 となった。卸売業、小売業で大幅な採算悪化がみられ 2 期連続で低下した。

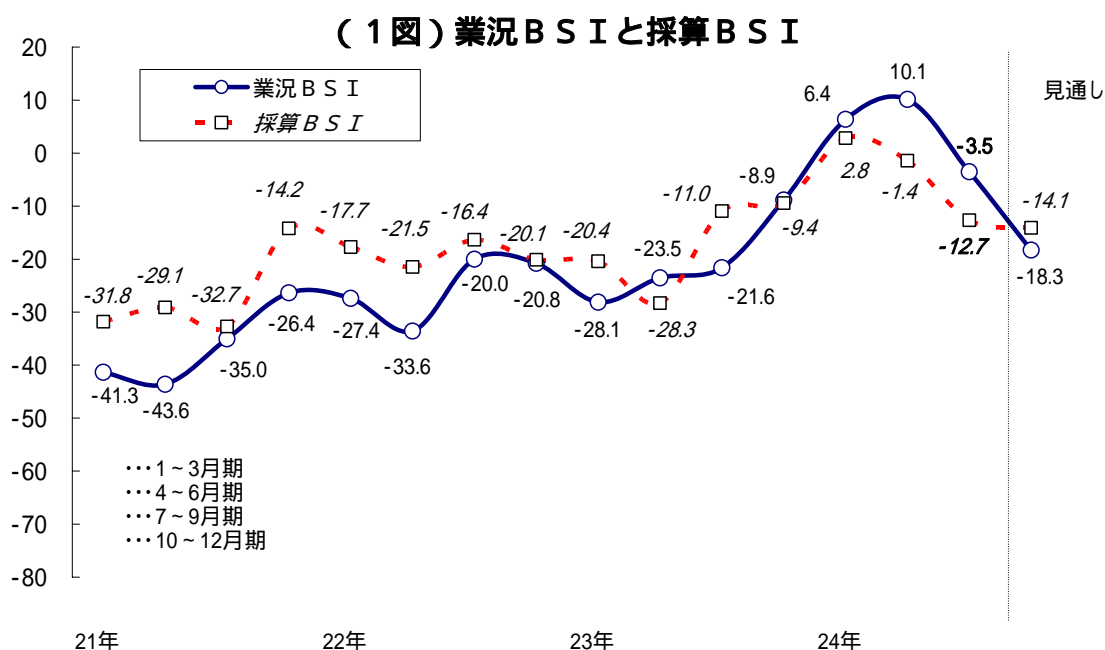
主要 BSI をみると、「生産高 BSI」、「操業度 BSI」は、碎石、一般機械、精密機械などで減産の動きがみられ、ともに低下した。建設業の「受注高 BSI」は、土木、総合建設業を中心に受注増加割合が広がり、2 期連続で上昇した。「売上高 BSI」は、小売業、卸売業が大幅に低下し、4 期ぶりに低下した。「出荷高 BSI」は水産加工、酒類などで

出荷減少がみられたほか、化学、鉄鋼で減少に転じる動きがみられ、大幅に落ち込んだ。「在庫投資 BSI」は製造業、非製造業ともほぼ適正水準となった。「設備投資 BSI」は製造業、非製造業とも上昇がみられたが、投資金額は製造業で縮小傾向がうかがわれた。

当期の業況 BSI は、3 期ぶりにマイナスに転じた。ただ、業況好転とする割合は 3 割を超えており、全体としては高めの水準にとどまっている。

来期の見通しについては、製造業で上昇が見込まれるものの、非製造業は各産業とも低下が見込まれており、当期比 14.8 ポイント低下の 18.3 となる見通しである。

(以上、1～12 図、1 表 参照)



2. 24年7～9月期の業況

(1) 業況 卸売業、小売業が大幅低下

24年7～9月期の全産業「業況BSI」は前期比13.6ポイント低下の-3.5となった。業況判断の内訳をみると、業況好転とした企業の割合は同8.9ポイント減少の32.4%、一方、業況悪化とした企業の割合は同4.7ポイント増加の35.9%となった。

産業別の「業況BSI」をみると、製造業は前期比20.7ポイント低下の-17.6となった。生コン、農業機械、一般機械などで業況好転がみられたものの、水産加工、麺類、酒類、飲料などの食料品や化学、精密機械で悪化が目立った。

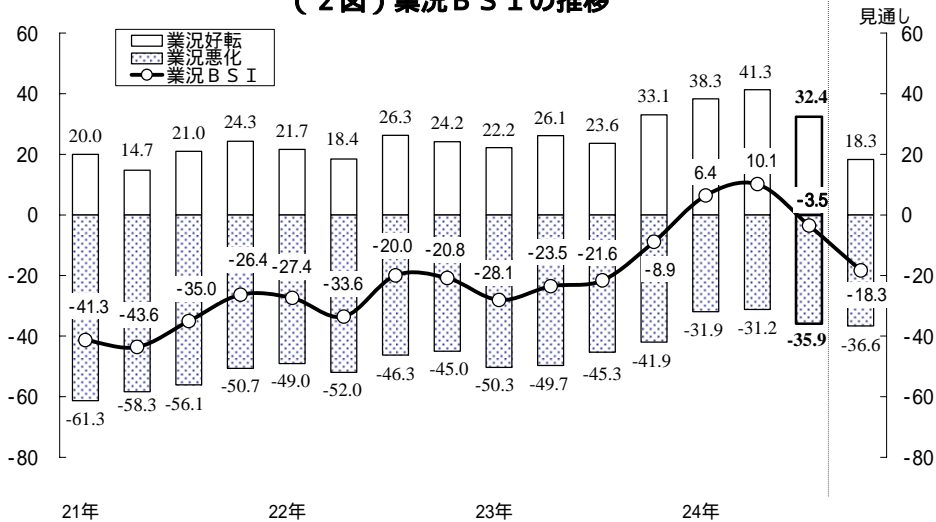
非製造業は、建設業が前期比32.8ポイント上昇の14.3と大幅に改善したものの、卸売業は同47.9ポイント低下の-17.9、小売業は同29.1ポイント低下の-20.0と大幅に低下したほか、運輸・サービス業も同7.1ポイント低下の18.8となった。建設業は土木関連、総合建設業で好転割合が広が

ったほか、設備工事の一部でも好転がみられた。卸売業は建設資材、燃料で好転がみられたものの、水産物、衣料品、事務機器、農業機械、紙類などで悪化が目立った。小売業は乗用車、貨物自動車、電気製品で好転がみられたものの、スーパー、衣料品、酒類、燃料、書籍で悪化が目立った。運輸・サービス業は情報処理、葬祭関連、リース、広告などで好転したものの、宿泊、旅客運送、道路貨物運送で悪化が目立った。

当期の「業況BSI」は6期ぶりに低下し、3期ぶりのマイナスとなった。ただ、業況好転とする割合は3割を超えており、全体としては高めの水準にとどまっている。

(以上、2図、付表 参照)

(2図) 業況BSIの推移



(付表) 産業別業況BSIの推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
23年7-9月期	-5.7	-27.6	-40.0	0.0	-34.5	-21.6
23年10-12月期	0.0	-31.8	-29.6	42.9	-18.5	-8.9
24年1-3月期	-3.1	-30.8	-6.5	50.0	28.6	6.4
24年4-6月期	3.1	-18.5	30.0	9.1	25.9	10.1
24年7-9月期	-17.6	14.3	-17.9	-20.0	18.8	-3.5
来期見通し	-11.8	-17.9	-25.0	-25.0	-15.6	-18.3

(2) 採算の状況

「採算BSI」2期連続低下、採算面の厳しさが広がる

24年7～9月期の全産業「採算BSI」は前期比11.3ポイント低下の-12.7となり、2期連続で低下した。採算判断の内訳をみると、採算好転企業の割合は同6.1ポイント減少の14.8%、一方、採算悪化企業の割合は同5.2ポイント増加の27.5%となった。

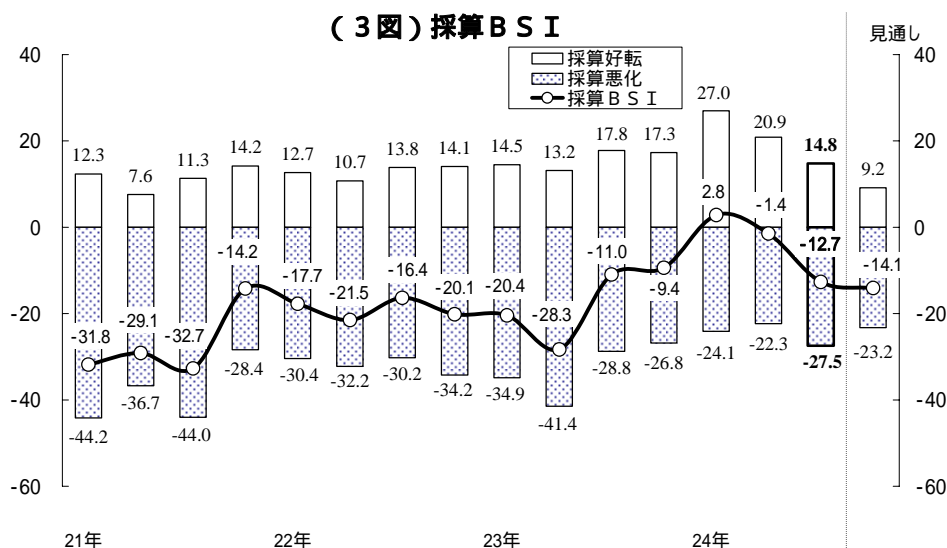
産業別の「採算BSI」をみると、製造業は前期比9.9ポイント上昇の3.0となった。酒類、飲料、化学、精密機械で採算悪化がみられたものの、水産加工、生コン、一般機械で好転がみられた。

非製造業は、建設業が前期比8.0ポイント上昇の17.9となったものの、卸売業は同38.3ポイント低下の-25.0、小売業は同32.1ポイント低下の-23.8と大幅に低下したほか、運輸・サービス業も同11.1ポイント低下の0.0となった。建設業は一部で好転がみられたほか、前期に比べ悪化とする割

合が減少した。卸売業は建設資材で好転がみられたものの、水産物、衣料品、農機具、燃料などで悪化が目立った。小売業は乗用車、電気製品で好転がみられたものの、スーパー、酒類、衣料品、宝飾品、書籍、燃料で悪化が目立った。運輸・サービス業は旅行斡旋、不動産賃貸、葬祭関連、広告などで好転したものの、宿泊で悪化割合が広がったほか、貨物運送、ガス供給で悪化がみられた。

「採算BSI」は、このところ、震災からの反動などにより高水準で推移してきたが、当期は卸売業、小売業で大幅に悪化し、全体を押し下げた。好転とする割合が3期ぶりに2割を下回る一方、悪化割合が増加し、採算面での厳しさが広がってきた状況がうかがわれた。

(以上、3図、付表 参照)



(付表) 産業別採算BSIの推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
23年7-9月期	-20.6	-28.6	-12.9	33.3	-17.2	-11.0
23年10-12月期	-11.1	-45.5	-3.4	22.7	-11.1	-9.4
24年1-3月期	-12.9	-15.4	0.0	30.8	14.8	2.8
24年4-6月期	-12.9	-25.9	13.3	8.3	11.1	-1.4
24年7-9月期	-3.0	-17.9	-25.0	-23.8	0.0	-12.7
来期見通し	-18.2	-10.7	-10.7	-19.0	-12.5	-14.1

(3) 生産高・操業度の状況

「生産高 BSI」、 「操業度 BSI」とも低下

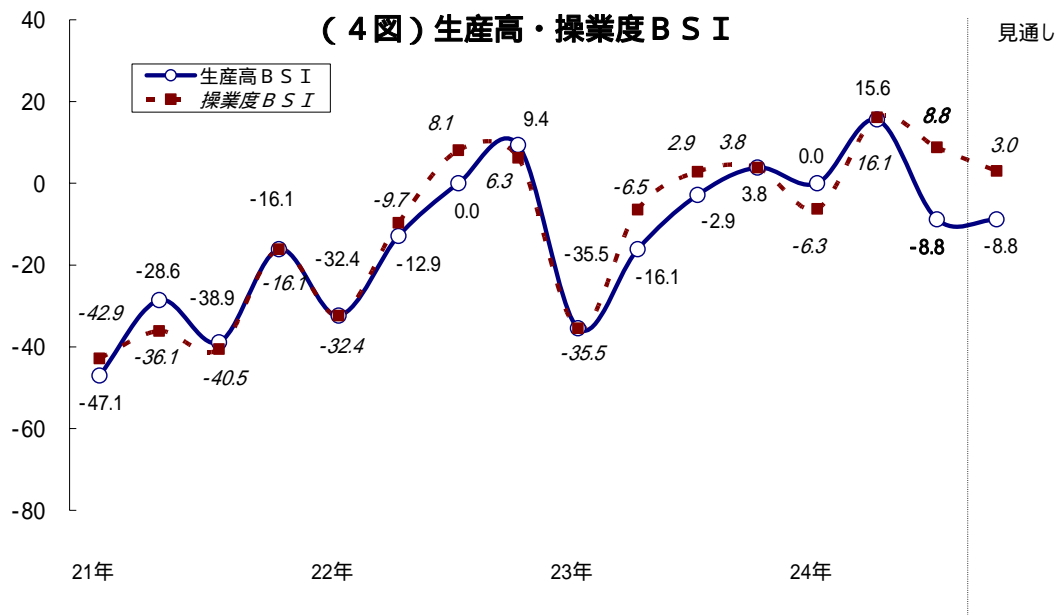
24年7~9月期の「生産高 BSI」は前期比 24.4 ポイント低下の 8.8、「操業度 BSI」が同 7.3 ポイント低下の 8.8 とそれぞれ低下した。

パルプ・紙、農業機械、電子部品・デバイスで増産がみられたものの、砕石、一般機械、精密機械で減産の動きがみられた。食料品は水産加工の一部で増産がみられたものの、調味料、麺類、酒類、飲料で減産

の動きが広がった。

なお、来期は「生産高 BSI」が当期比横バイの 8.8、「操業度 BSI」は同 5.8 ポイント低下の 3.0となる見通しである。生コン、鉄鋼で減産の動きが広がるものの、漬物、麺類などの食料品で増産に転じる動きが見込まれている。

(以上、4 図 参照)



(4) 受注高の状況

「受注高 BSI」2 期連続で上昇

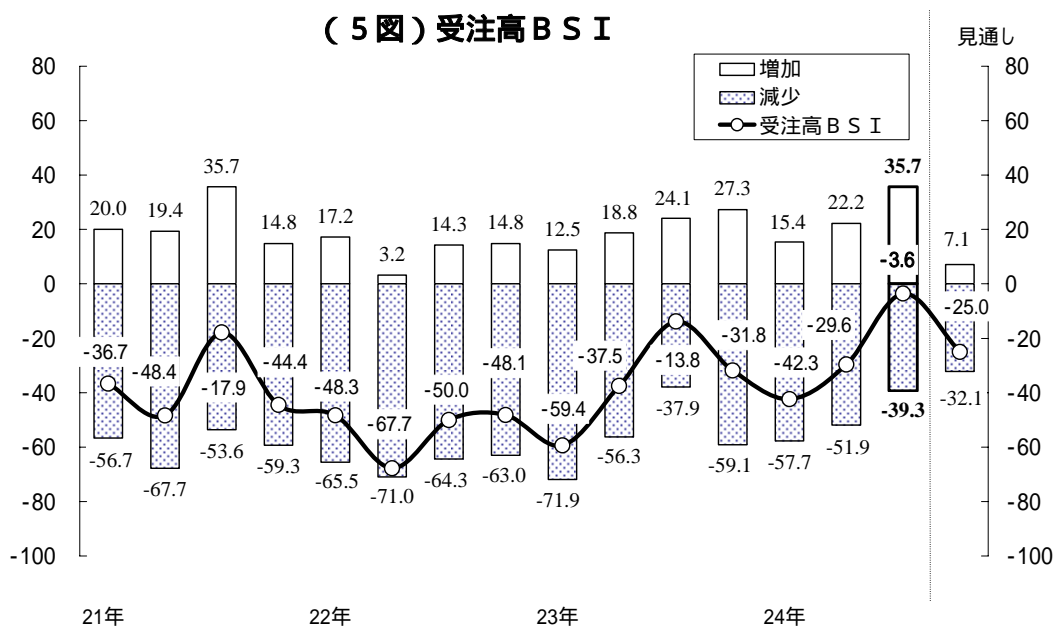
24年7~9月期の建設業の「受注高 BSI」は前期比 26.0 ポイント上昇の 3.6 となり、2 期連続で上昇した。内訳をみると、受注増加とする企業の割合が同 13.5 ポイント増加の 35.7%、一方、受注減少の割合は同 12.6 ポイント減少の 39.3%となった。受注増加とする割合が 3 割を超えたのは 3 年ぶりとなる。

当期は震災復興需要や北海道新幹線関連など公共工事が堅調に推移し、土木関連、総合建設業を中心に受注増加とする割合が広がった。

来期は受注減少とする企業の割合が当期比 7.2 ポイント減少の 32.1%となるものの、受注増加とする割合は 28.6 ポイント減少の 7.1%と大幅に減少する見通しである。この

結果、「受注高BSI」は当期比21.4ポイント低下の-25.0に落ち込むものと見込まれている。

(以上、5図 参照)



(5) 売上高・出荷高の状況

「売上高BSI」、「出荷高BSI」ともに低下

24年7~9月期の「売上高BSI」は、前期比18.5ポイント低下の7.4と4期ぶりに低下した。

産業別の「売上高BSI」をみると、小売業が前期比39.8ポイント低下の19.0、卸売業が同26.9ポイント低下の3.6とそれぞれ大幅に低下した。一方、運輸・サービス業は同1.1ポイント上昇の34.4となった。

小売業は乗用車、貨物自動車で売上増加とする割合が縮小したほか、宝飾品、衣料品、燃料、書籍、電気製品など幅広い業種で減少がみられた。卸売業は建設資材、燃料で増加がみられたものの、水産物、電気機器、農業機械で減少に転じる動きが目立ったほか、事務用品、紙類などでも減少した。運輸・サービス業は宿泊、道路貨物

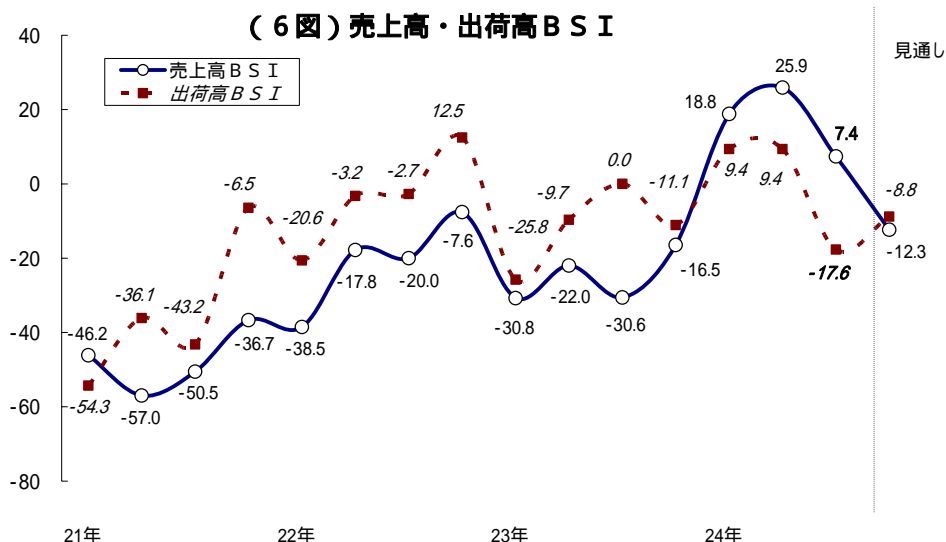
運送の一部で減少に転じたものの、ガス供給、情報処理、警備、リースなど幅広い業種で増加がみられた。

なお、来期の「売上高BSI」は、小売業で幾分上昇が見込まれるものの、運輸・サービス業は大幅に低下し、卸売業も低下が見込まれている。全体では当期比19.7ポイント低下の12.3と大幅に低下する見通しである。

製造業の24年7~9月期の「出荷高BSI」は前期比27.0ポイント低下の17.6と大幅に落ち込んだ。パルプ・紙、生コン、農業機械などで増加したものの、水産加工、酒類、麺類、飲料、精密機械などで減少が目立ったほか、化学、鉄鋼で減少に転じる動きがみられた。

なお、来期の「出荷高 BSI」は、漬物、麺類などで増加に転じる動きが見込まれており、当期比8.8ポイント上昇の 8.8となる見通しである。

(以上、6 図、付表 参照)



(付表) 売上高・出荷高 B S I の推移

	出荷高BSI		売上高BSI		
	製造業	卸売業	小売業	運輸・サービス	
23年 7 - 9月期	0.0	-38.7	4.0	-51.7	-30.6
23年10 - 12月期	-11.1	-37.9	39.1	-40.7	-16.5
24年 1 - 3月期	9.4	-9.7	53.8	17.9	18.8
24年 4 - 6月期	9.4	23.3	20.8	33.3	25.9
24年 7 - 9月期	-17.6	-3.6	-19.0	34.4	7.4
来期見通し	-8.8	-17.9	-14.3	-6.3	-12.3

(6) 価格の状況

価格ギャップは幾分拡大

24年7~9月期の「仕入単価 BSI」は前期比 2.3 ポイント上昇の 22.7 と、幾分上昇した。

産業別にみると、製造業が前期比 4.2 ポイント低下の 33.3、非製造業は同 4.6 ポイント上昇の 18.2 となった。製造業は鉄鋼で仕入単価低下がみられたものの、水産加工、酒類、飲料、調味料、パルプ・紙、生コンで上昇の動きが目立った。

非製造業は、卸売業が前期比 6.4 ポイント低下の 3.6 となったものの、小売業は同 19.0 ポイント上昇の 19.0、建設業は同 2.5

ポイント上昇の 32.1 となった。卸売業は建設資材、燃料で上昇したものの、水産物、農業機械、紙類で低下の動きがみられた。小売業は衣料品、酒類で低下したものの、スーパー、百貨店、乗用車、貨物自動車、燃料で上昇がみられた。建設業は土木関連、総合建設業で上昇が目立った。

24年7~9月期の「販売単価 BSI」は前期比 0.6 ポイント低下の 10.6 と、ほぼ横バイとなった。

産業別にみると、製造業が前期比 0.6 ポイント上昇の 8.8、非製造業が同 0.9 ポイ

ント低下の 11.1 となった。製造業は、パ
 ルプ・紙、砕石、精密機械などで販売単価
 低下がみられたものの、水産加工、飲料、
 生コン、鉄鋼で上昇した。

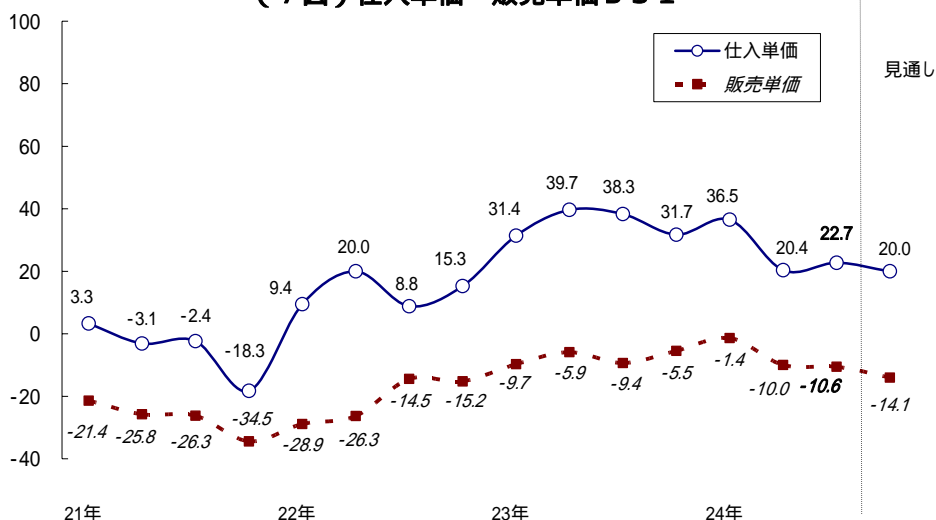
非製造業は、卸売業が前期比 13.8 ポイ
 ント低下の 7.1 となった。一方、建設業は
 同 8.3 ポイント上昇の 25.0、小売業は同
 3.5 ポイント上昇の 4.8、運輸・サービス業
 は同 0.9 ポイント上昇の 6.5 となった。卸
 売業は建設資材の一部で上昇したものの、
 青果物、水産物、農業機械、紙類などで低
 下がみられた。建設業は住宅建設、設備工
 事で低下とする割合が減少した。小売業は

貨物自動車、燃料で上昇したものの、宝飾
 品、スーパー、電気製品で低下がみられた。
 運輸・サービス業はガス供給、情報処理な
 どで上昇したものの、道路貨物運送、葬祭
 関連、介護で低下がみられたほか、宿泊で
 上昇とする割合が減少した。

この結果、当期の価格ギャップは前期に
 比べ幾分拡大した。なお、来期については、
 「仕入単価 BSI」が当期比 2.7 ポイント低下
 の 20.0、「販売単価 BSI」は同 3.5 ポイント
 低下の 14.1 と、ともに幾分低下する見通
 しである。

(以上、7 図、付表 参照)

(7 図) 仕入単価・販売単価 B S I



(付表) 仕入単価 B S I の推移 (上昇-低下)

	製造業					仕入単価 BSI
	建設業	卸売業	小売業	非製造業		
23年 7 - 9月期	48.6	37.9	35.5	28.0	34.1	38.3
23年10 - 12月期	48.1	40.9	17.2	21.7	25.7	31.7
24年 1 - 3月期	40.6	38.5	29.0	38.5	34.9	36.5
24年 4 - 6月期	37.5	29.6	10.0	0.0	13.6	20.4
24年 7 - 9月期	33.3	32.1	3.6	19.0	18.2	22.7
来期見通し	30.3	32.1	-3.6	19.0	15.6	20.0

(付表) 販売単価 B S I の推移 (上昇-低下)

	製造業					非製造業	販売単価 BSI
	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス			
23年 7 - 9月期	-5.7	-34.5	3.2	16.0	-24.1	-10.5	-9.4
23年10 - 12月期	-11.1	-36.4	10.3	8.7	-3.7	-4.0	-5.5
24年 1 - 3月期	-6.3	-30.8	16.1	23.1	-10.7	0.0	-1.4
24年 4 - 6月期	-9.4	-33.3	6.7	-8.3	-7.4	-10.2	-10.0
24年 7 - 9月期	-8.8	-25.0	-7.1	-4.8	-6.5	-11.1	-10.6
来期見通し	-17.6	-25.0	-21.4	4.8	-6.5	-13.0	-14.1

(7) 在庫投資・在庫水準の状況

「在庫投資 BSI」、製造業、非製造業ともほぼ適正水準

24年7～9月期の「在庫投資 BSI」は、製造業が前期比 21.9 ポイント低下の 0.0、非製造業は同 9.5 ポイント上昇の 2.1 となった。製造業は水産加工、パルプ・紙で在庫積み増しがみられたものの、飲料、木材・木製品、化学、精密機械で手控えの動きがみられた。非製造業は適正とする回答が大勢を占める中、卸売業の衣料品、紙類、水産物、漁具、衣料品で積み増しがみられた。

なお、来期の在庫投資 BSI は、製造業が当期比 12.1 ポイント低下の -12.1、非製造業が同 20.9 ポイント低下の -18.8 と見込まれている。

次に在庫水準についてみると、まず製造業の「原材料在庫水準 BSI」は前期比 2.6 ポイント低下の -9.1 となり、幾分手控えの

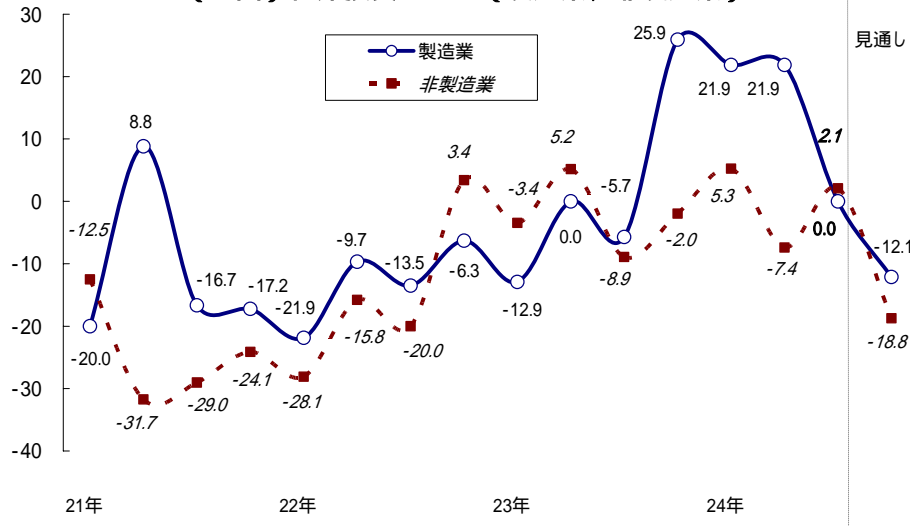
動きがみられた。来期は当期比 2.8 ポイント上昇の -6.3 となる見通しである。

一方、「製品・商品在庫水準 BSI」は、製造業の製品在庫水準 BSI が前期比 2.4 ポイント上昇の 11.8 となり、卸・小売業の「商品在庫水準 BSI」は同 8.3 ポイント上昇の 10.2 となった。製品は飲料、砕石で不足感がみられたものの、パルプ・紙で過剰感がうかがわれた。商品は卸売業の水産物、紙類、漁具、小売業の衣類などで過剰感がみられた。

来期は製品が当期比 8.9 ポイント低下の 2.9 と、適正水準に復するものと見込まれ、商品は同 2.0 ポイント低下の 8.2 と、ほぼ横バイの見通しである。

(以上、8 図、付表 参照)

(8 図) 在庫投資 B S I (製造業、非製造業)



(付表) 在庫関連 B S I の推移

	在庫投資 BSI		原材料在庫水準 BSI	製品・商品在庫水準 BSI	
	製造業	非製造業	製造業	製造業	卸・小売業
23年 7 - 9月期	-5.7	-8.9	-2.9	0.0	0.0
23年 10 - 12月期	25.9	-2.0	-3.8	18.5	5.8
24年 1 - 3月期	21.9	5.3	0.0	21.9	-8.8
24年 4 - 6月期	21.9	-7.4	-6.5	9.4	1.9
24年 7 - 9月期	0.0	2.1	-9.1	11.8	10.2
来期見通し	-12.1	-18.8	-6.3	2.9	8.2

(8) 設備投資の動向

製造業、非製造業とも上昇

24年7～9月期の「設備投資BSI」は、製造業が前期比2.9ポイント上昇の2.9、非製造業が同8.8ポイント上昇の1.0となった。

製造業は、水産加工で製造ラインの導入、パルプ・紙で震災復興関連、老朽化更新、土地購入、化学で倉庫新設、鉄鋼で設備更新などの投資がみられた。しかしながら、投資金額は前期に比べ縮小し、全体に復興関連の投資に一服感がうかがわれる。

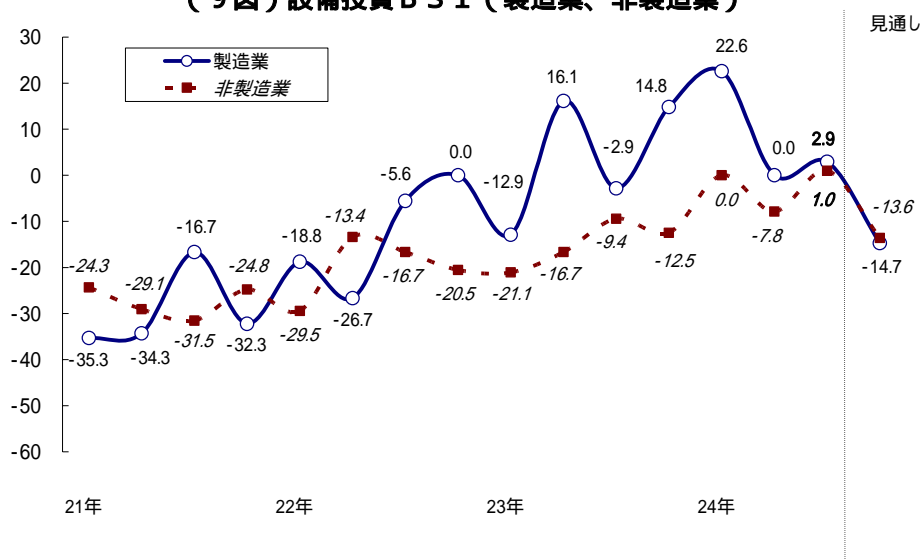
非製造業をみると、建設業は重機購入などの投資、卸売業は建設資材でパソコン更新、倉庫改修、農業機械で車輛購入、社屋改修などの投資がみられたものの、全体に慎重な動きとなった。小売業はスーパーで

レジシステム導入、省エネ設備導入、店舗改装などの投資がみられた。運輸・サービス業は道路貨物運送で発送システム導入、荷役機械、車輛購入など、ガス供給で配管更新、リースで重機等レンタル資産購入などの投資がみられ、投資金額は前期に比べ大幅に増加した。

なお、来期の「設備投資BSI」は、製造業が当期比17.6ポイント低下の14.7と、非製造業が同14.6ポイント低下の13.6となり、ともにマイナスに転じる見通しである。

(以上、9図参照)

(9図) 設備投資BSI (製造業、非製造業)



(9) 企業金融の動向

手元資金が圧縮傾向

24年7～9月期の企業金融の動向をみると、「現金・預金BSI」が前期比7.4ポイント低下の2.2となった。一方、「借入難易BSI」は同0.7ポイント上昇の3.8、「借入金利BSI」が同4.0ポイント上昇の9.5、「資金繰

り難易BSI」は同1.4ポイント上昇の7.4となった。

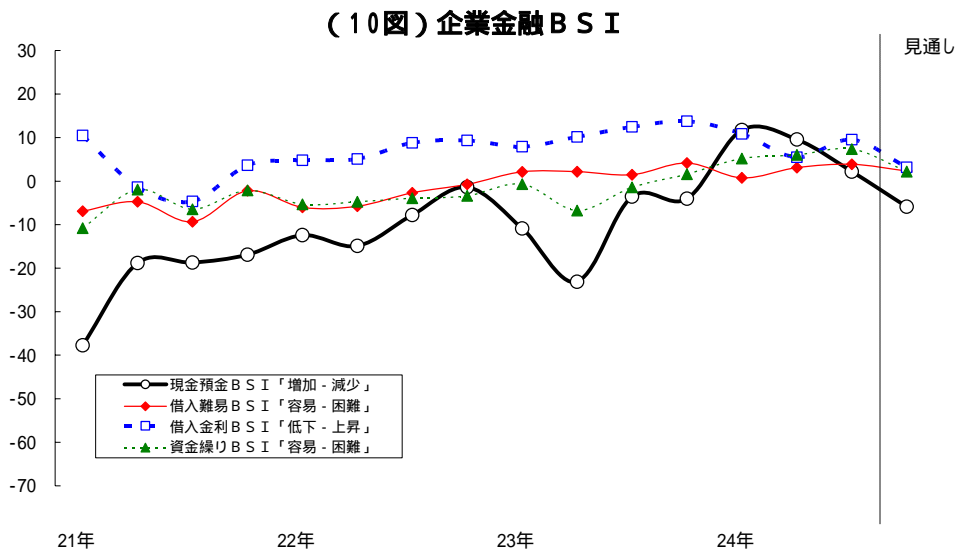
当期は全体に落ち着いた動きであったが、前期に比べ手元資金の減少、借入金利の上昇といった傾向がみられ、資金繰り面で

幾分窮屈さが増す様子うかがわれた。

なお、来期は手元資金の圧縮傾向が強まる見通しであるが、借入難易度、借入金

利、資金繰りはほぼ適正範囲での動きが見込まれている。

(以上、10 図,付表 参照)



(付表) 企業金融BSIの推移

	現金預金BSI (増加 - 減少)	借入難易BSI (容易 - 困難)	借入金利BSI (低下 - 上昇)	資金繰りBSI (容易 - 困難)
23年 7 - 9月期	-3.6	1.5	12.5	-1.4
23年10 - 12月期	-4.0	4.2	13.8	1.6
24年 1 - 3月期	11.8	0.8	10.9	5.2
24年 4 - 6月期	9.6	3.1	5.5	6.0
24年 7 - 9月期	2.2	3.8	9.5	7.4
来期見通し	-5.9	2.3	3.2	2.2

(10) 地区別の状況

3 地区とも業況BSI、生産高BSIなどが低下

24年7～9月期の「業況BSI」を地区別にみると、青森地区が前期比15.9ポイント低下の0.0、津軽地区が同15.4ポイント低下の21.1、県南地区が同10.0ポイント低下の5.3と、3地区ともに低下した。

主要BSIをみると、まず、「生産高BSI」は、青森地区が前期比30.4ポイント低下の12.5、県南地区が同26.3ポイント低下の0.0とそれぞれ大幅に低下したほか、津軽地区も同7.1ポイント低下の57.1となった。

「出荷高BSI」は、青森地区が前期比

55.4ポイント低下の12.5、津軽地区が同23.8ポイント低下の57.1、県南地区が同15.8ポイント低下の5.3と、3地区ともに低下した。

「売上高BSI」は、津軽地区が前期比55.0ポイント低下の21.7、青森地区が同20.2ポイント低下の6.5と大幅に低下した。一方、県南地区は同13.3ポイント上昇の33.3となった。

建設業の「受注高BSI」は、津軽地区が前期比55.6ポイント上昇の0.0、県南地区が同30.9ポイント上昇の0.0、青森地区が

同 12.5 ポイント上昇の 0.0 と、3地区とも大幅に上昇した。

「在庫投資 BSI」は、青森地区が前期比 17.4 ポイント上昇の 34.6 となった。一方、県南地区は同 13.3 ポイント低下の 5.6、津軽地区は同 3.8 ポイント低下の 31.6 となった。

「設備投資 BSI」は、青森地区が前期比 22.2 ポイント上昇の 15.2、県南地区が同 5.5 ポイント上昇の 3.7 となった。一方、津軽地区は同 7.5 ポイント低下の 18.9 となった。

「採算 BSI」は、青森地区が前期比 17.7 ポイント低下の 10.9、県南地区が同 8.7 ポイント低下の 7.0、津軽地区が同 6.4 ポイント低下の 23.1 と、3地区ともに低下した。

来期の「業況 BSI」をみると、青森地区が当期比 23.4 ポイント低下の 23.4、津軽地区が同 10.5 ポイント低下の 31.6、県南地区が同 10.6 ポイント低下の 5.3 と、3地区ともさらに低下する見通しである。

主要 BSI をみると、「生産高 BSI」、「出荷高 BSI」は青森地区で低下が、津軽地区、県南地区では上昇または横バイが見込まれている。「売上高 BSI」は青森地区、県南地区で低下し、津軽地区では横バイの見通しとなっている。「受注高 BSI」は青森地区、津軽地区で低下し、県南地区では横バイの見通しとなっている。「採算 BSI」は津軽地区、県南地区で低下し、青森地区で上昇が見込まれている。

(以上、1表参照)

(1表) 地域別 B S I の推移

	業況BSI			生産高BSI			出荷高BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
23年 7 - 9月期	-12.0	-43.6	-15.3	12.5	-37.5	5.3	37.5	-25.0	-5.3
23年10 - 12月期	2.5	-25.0	-6.3	0.0	0.0	6.7	20.0	-33.3	-12.5
24年 1 - 3月期	16.3	-8.8	6.9	11.1	-20.0	0.0	22.2	0.0	5.6
24年 4 - 6月期	15.9	-5.7	15.3	42.9	-50.0	26.3	42.9	-33.3	10.5
24年 7 - 9月期	0.0	-21.1	5.3	12.5	-57.1	0.0	-12.5	-57.1	-5.3
来期見通し	-23.4	-31.6	-5.3	-25.0	-14.3	0.0	-25.0	-14.3	0.0
	売上高BSI			受注高BSI			在庫投資BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
23年 7 - 9月期	-21.9	-22.7	-45.2	0.0	-20.0	-22.2	-16.1	-4.8	-2.6
23年10 - 12月期	-16.1	-18.2	-15.4	0.0	-75.0	-12.5	-3.6	11.8	15.2
24年 1 - 3月期	30.3	0.0	20.0	-37.5	-71.4	-27.3	21.2	-10.5	13.5
24年 4 - 6月期	26.7	33.3	20.0	12.5	-55.6	-40.0	17.2	-27.8	7.7
24年 7 - 9月期	6.5	-21.7	33.3	0.0	0.0	-9.1	34.6	-31.6	-5.6
来期見通し	-12.9	-21.7	-3.7	-12.5	-55.6	-9.1	15.4	-26.3	-33.3
	設備投資BSI			採算BSI			資金繰りBSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
23年 7 - 9月期	-6.5	-10.5	-7.0	-4.2	-20.5	-10.2	8.5	-12.8	-1.8
23年10 - 12月期	-2.4	-25.7	4.3	2.4	-33.3	-2.0	16.7	-15.2	0.0
24年 1 - 3月期	18.4	-3.1	-1.8	18.4	-20.6	3.4	10.2	3.3	1.8
24年 4 - 6月期	-7.0	-11.4	-1.8	6.8	-16.7	1.7	15.9	-9.1	7.1
24年 7 - 9月期	15.2	-18.9	3.7	-10.9	-23.1	-7.0	13.3	-5.4	11.1
来期見通し	-8.7	-24.3	-11.1	-2.2	-28.2	-14.0	8.9	-16.2	9.3

3. 経営上の問題点

「競争の激化」がトップ、産業間で幾分バラツキ

24年7～9月期の経営上の問題点については、「競争の激化」が69.8%でトップとなった。以下、「売上・受注不振」が51.8%、「収益低下」が42.4%、「販売・受注単価低下」が31.7%、「仕入単価上昇」が23.0%などと続いた。「競争の激化」については、このところ7割前後と高止まり傾向がみられ、経営環境の厳しさが続いている様子が見られる。

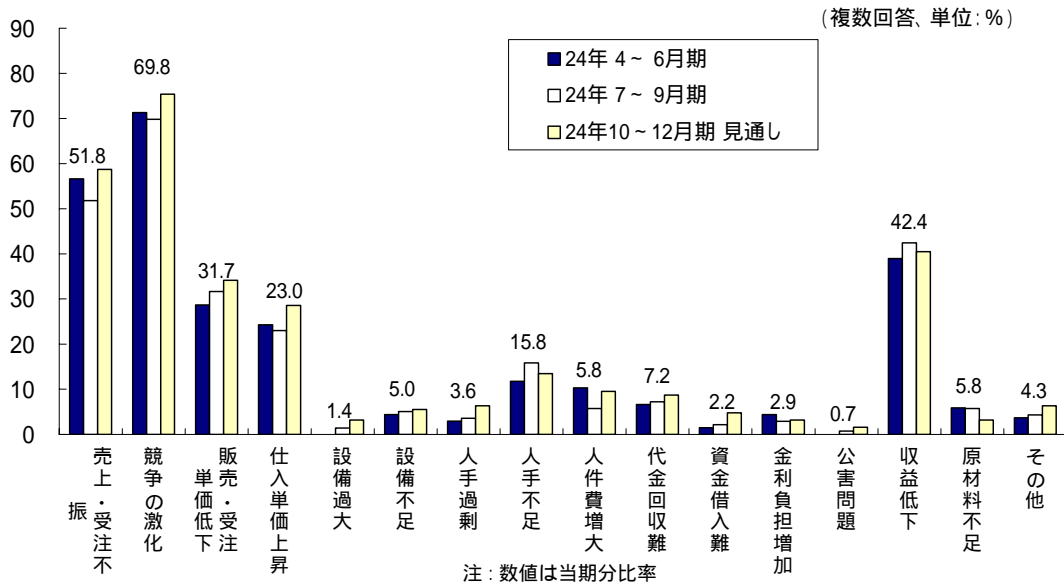
産業別にみると、製造業は「売上不振」がトップとなり、建設業、卸売業、小売業、運輸・サービス業は「競争の激化」がトップとなった。建設業は「競争の激化」が8割を超えたほか、「人手不足」が3割を超えた。卸売

業は「収益低下」が2位となり、5割近くを占めた。運輸・サービス業のうち運輸業は「収益低下」が5割を超えたほか、「人手不足」が3割を超えた。当期は産業間で順位、割合に幾分バラツキがみられた。

なお、来期の経営上の問題点については、「競争の激化」、「売上・受注不振」の割合が増すほか、「販売・受注単価低下」、「仕入単価上昇」といった価格面における問題点も増加が見込まれている。

(以上、11図、付表 参照)

(11図) 経営上の問題点



(付表) 経営上の問題点

(複数回答、単位：%)

	売上・受注不振	競争激化	販売・受注単価低下	仕入単価上昇	人件費増大	代金回収難	金利負担増加	収益低下
23年7-9月期	56.8	62.3	32.2	30.1	8.9	6.8	4.8	42.5
23年10-12月期	59.2	61.6	28.0	32.8	7.2	5.6	3.2	42.4
24年1-3月期	48.2	64.7	28.8	36.0	10.8	5.8	5.0	34.5
24年4-6月期	56.6	71.3	28.7	24.3	10.3	6.6	4.4	39.0
24年7-9月期	51.8	69.8	31.7	23.0	5.8	7.2	2.9	42.4
来期見通し	58.7	75.4	34.1	28.6	9.5	8.7	3.2	40.5

4. 来期の見通し

来期(24年10～12月期)の「業況BSI」は、全産業ベースで当期比14.8ポイント低下の18.3となる見通しである。産業別にみると、運輸・サービス業が同34.4ポイント低下の15.6、建設業が同32.2ポイント低下の17.9、卸売業が同7.1ポイント低下の25.0、小売業が同5.0ポイント低下の25.0と、非製造業はそれぞれ低下が見込まれている。一方、製造業は同5.8ポイント上昇の11.8となる見通しである。

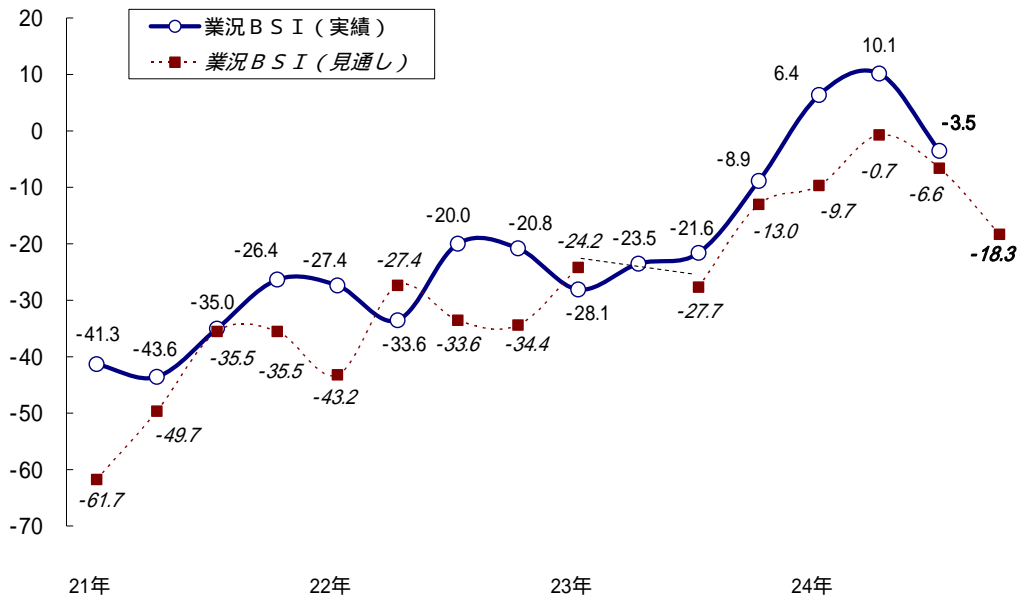
次に「採算BSI」をみると、全産業ベースで当期比1.4ポイント低下の14.1となる見

通しである。産業別にみると、製造業が同15.2ポイント低下の18.2、運輸・サービス業が同12.5ポイント低下の12.5となる見通しである。一方、卸売業は同14.3ポイント上昇の10.7、建設業は同7.2ポイント上昇の10.7、小売業は同4.8ポイント上昇の19.0となる見通しである。

その他の主要BSIは、「操業度BSI」、「受注高BSI」、「売上高BSI」が低下し、「生産高BSI」は横バイ、「出荷高BSI」が上昇する見通しである。

(以上、1～12図、付表参照)

(12図) 業況BSIの見通しと実績の推移



(付表) 業況BSI、採算BSIの来期見通し

		製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
業況BSI	24年7-9月期	-17.6	14.3	-17.9	-20.0	18.8	-3.5
	来期見通し	-11.8	-17.9	-25.0	-25.0	-15.6	-18.3
採算BSI	24年7-9月期	-3.0	-17.9	-25.0	-23.8	0.0	-12.7
	来期見通し	-18.2	-10.7	-10.7	-19.0	-12.5	-14.1

【本件に関する照会先】 一般財団法人 青森地域社会研究所
担当：野里 TEL 017-777-1511